
新月館主人

今は昔
あるところにひなびた
漁村があった

人里から遠く離れた僻地に
あるというのに集落には人の出入りが
絶えず、名産品があるわけでもないが
不思議と賑わっていたという

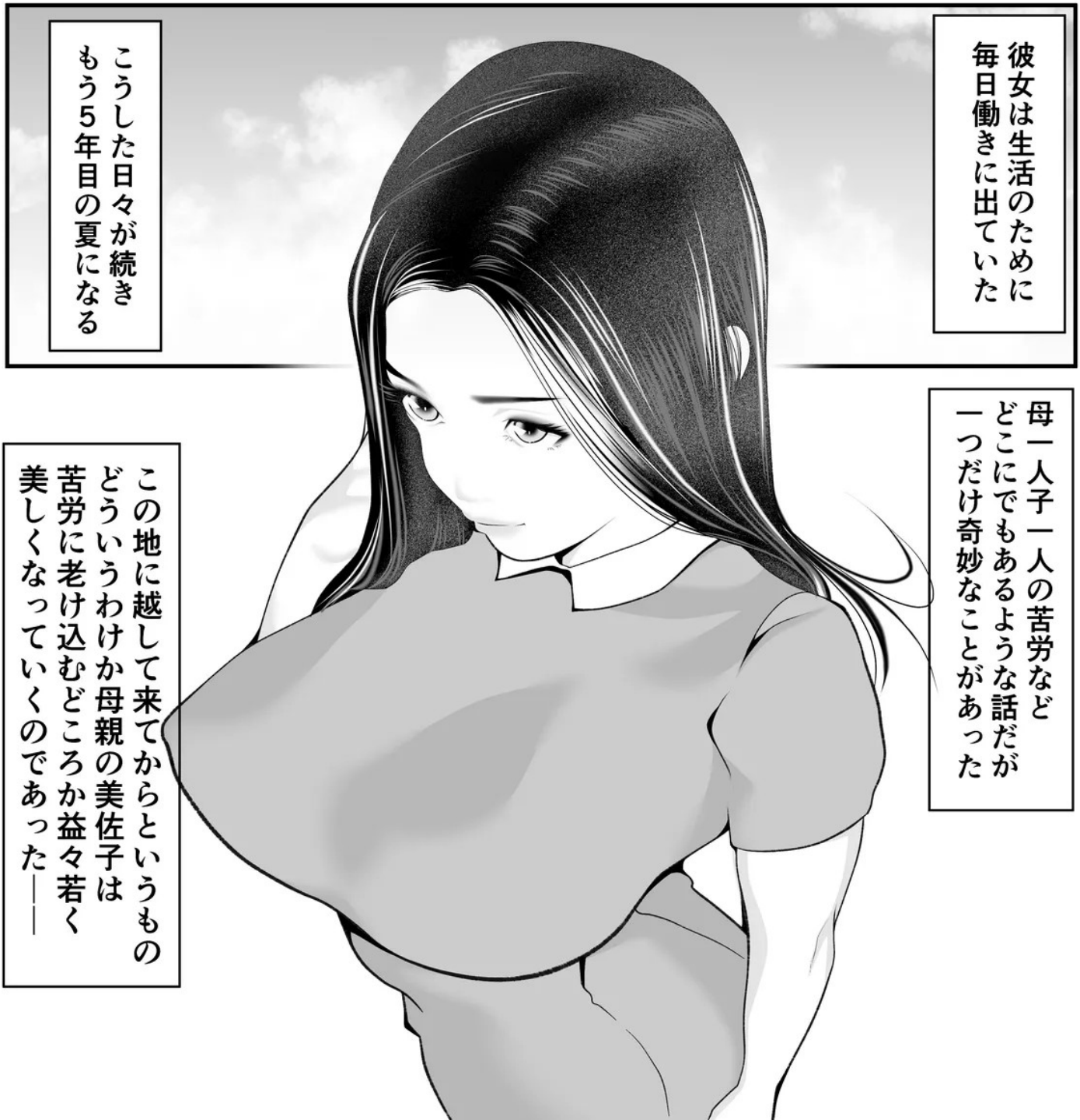
そしてさらに村はずれの一軒家に
ひっそりと隠れたように暮らす
親子の姿があった

一人息子のマサルは
幼き頃より胸の病を
患っており

長く床に臥せっている
のであった


あら、起きていていいの？
それが今日は随分と具合がいいんだ
久しぶりに遠くへ散歩に行こうかな
そう少しならいいけど無理をしてはだめよ
うん、わかってる


じゃあお母さん行って来るからあとお願いね
いってらっしゃい！


彼女は生活のために毎日働きに出ていた
こうした日々が続きもう5年目の夏になる
母一人子一人の苦労などどこにでもあるような話だが一つだけ奇妙なことがあった
この地に越して来てからというものどういうわけか母親の美佐子は苦労に老け込むどころか益々若く美しくなっていくのであった――


ザザーン
ザザーン
今日はいい天気だな
汗ばむくらいだ
でもすぐ戻るのももったいないな
少し涼んでから帰ろうか
息子のマサルが歩き疲れて
しばらく休んでいると
どこからか砂を踏みしめる
音が聞こえてきた
ザッ
ザッ
日頃から村の皆に
姿を見せてはいけないと
言われている彼は
とっさに身を隠した

こんなところに来るのは誰だろうと
恐る恐る物陰から様子を伺ってみれば
その正体は



際どいいでたちをした
妙齢の女性と

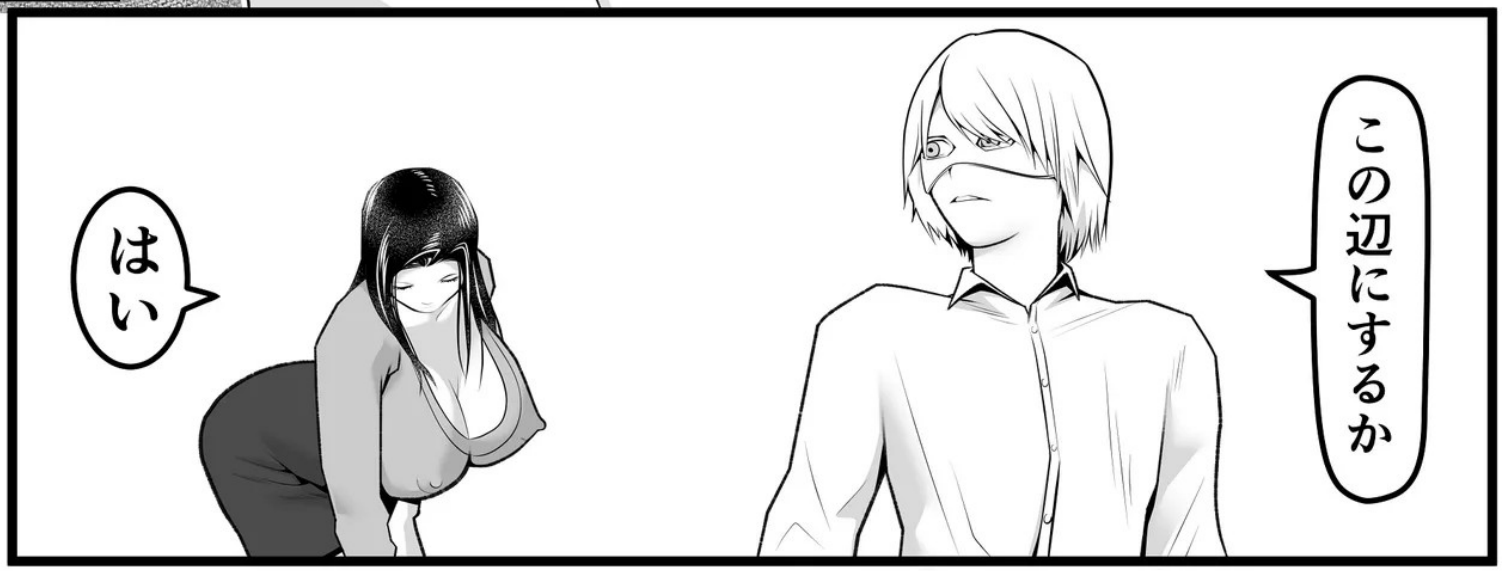
仮面をかぶった
奇妙な少年であった

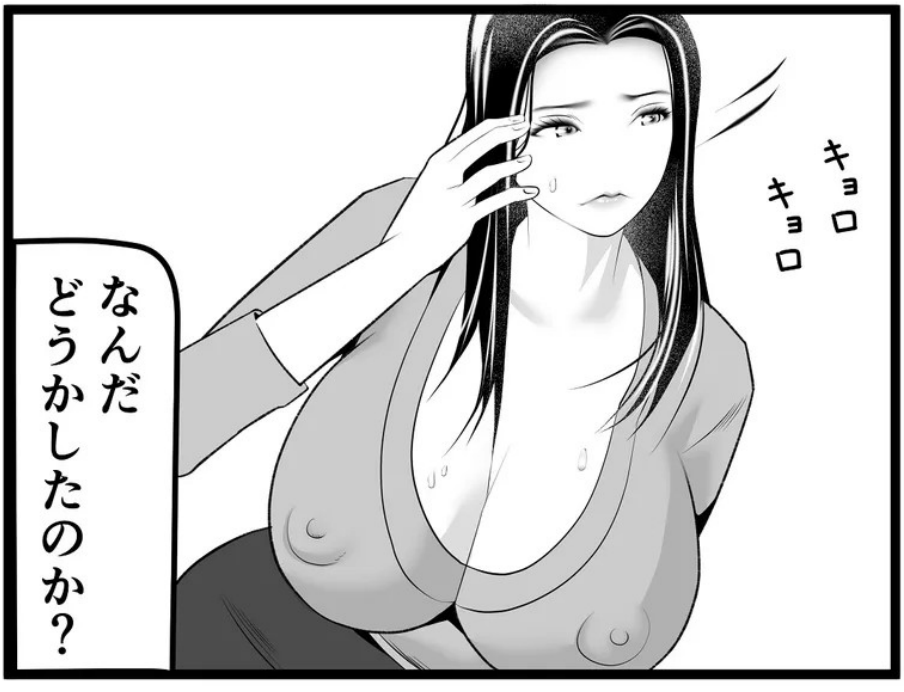


女は大きく胸元の空いた煽情的な服を着ており
その色気はここまで漂ってくるほどで

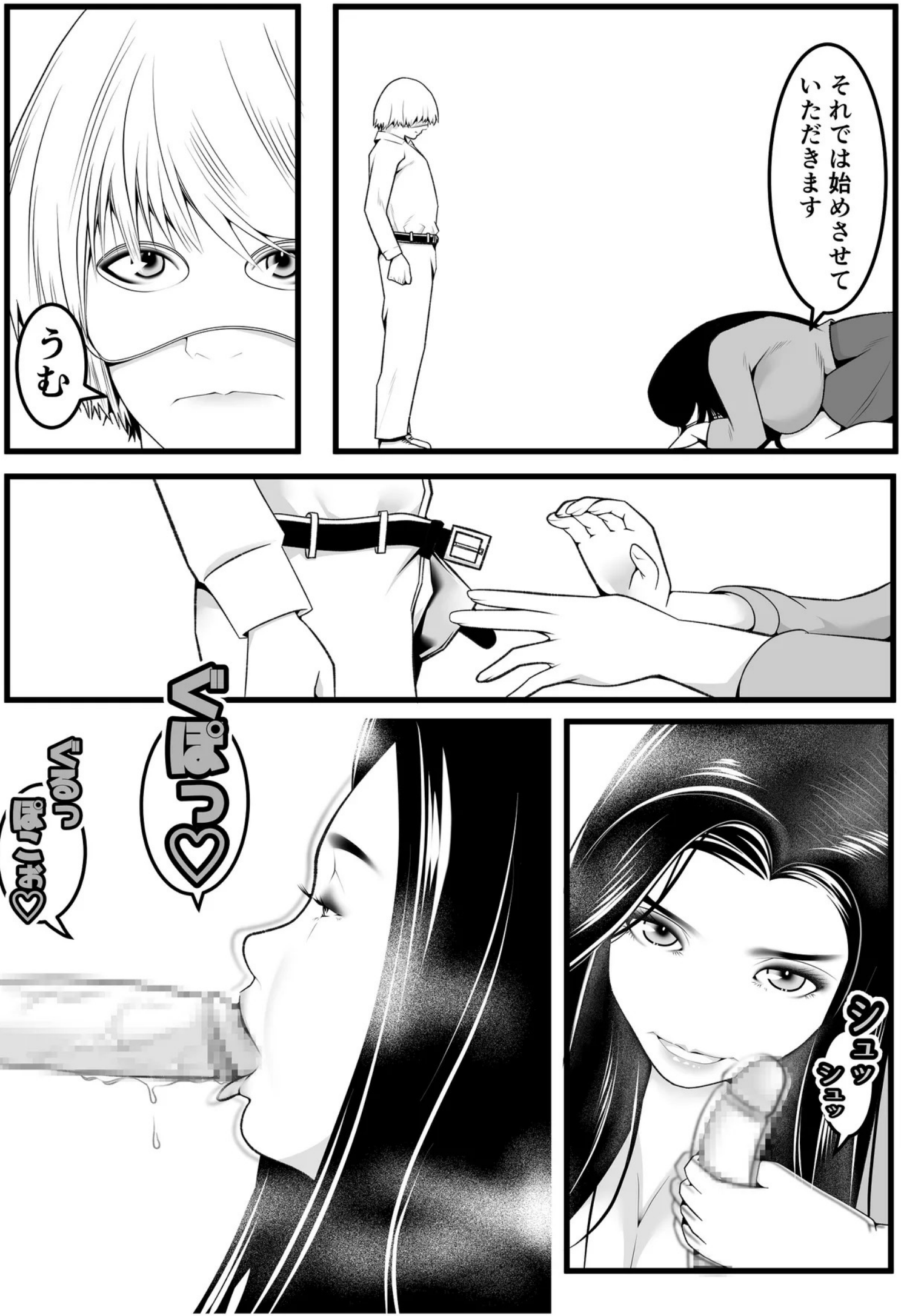
無意識にマサルの下腹部は
熱を帯びた


しかしよくよく注意深く
その顔を覗いてみれば
なんとその痴女は
自らの母ではないか
これはいったい
どうしたことなのか
マサルは衝撃のあまり
ひどい眩暈を覚えた


この辺にするか
はい


キョロ
キョロ
なんだ
どうかしたのか？


……いえ
なんでもありません

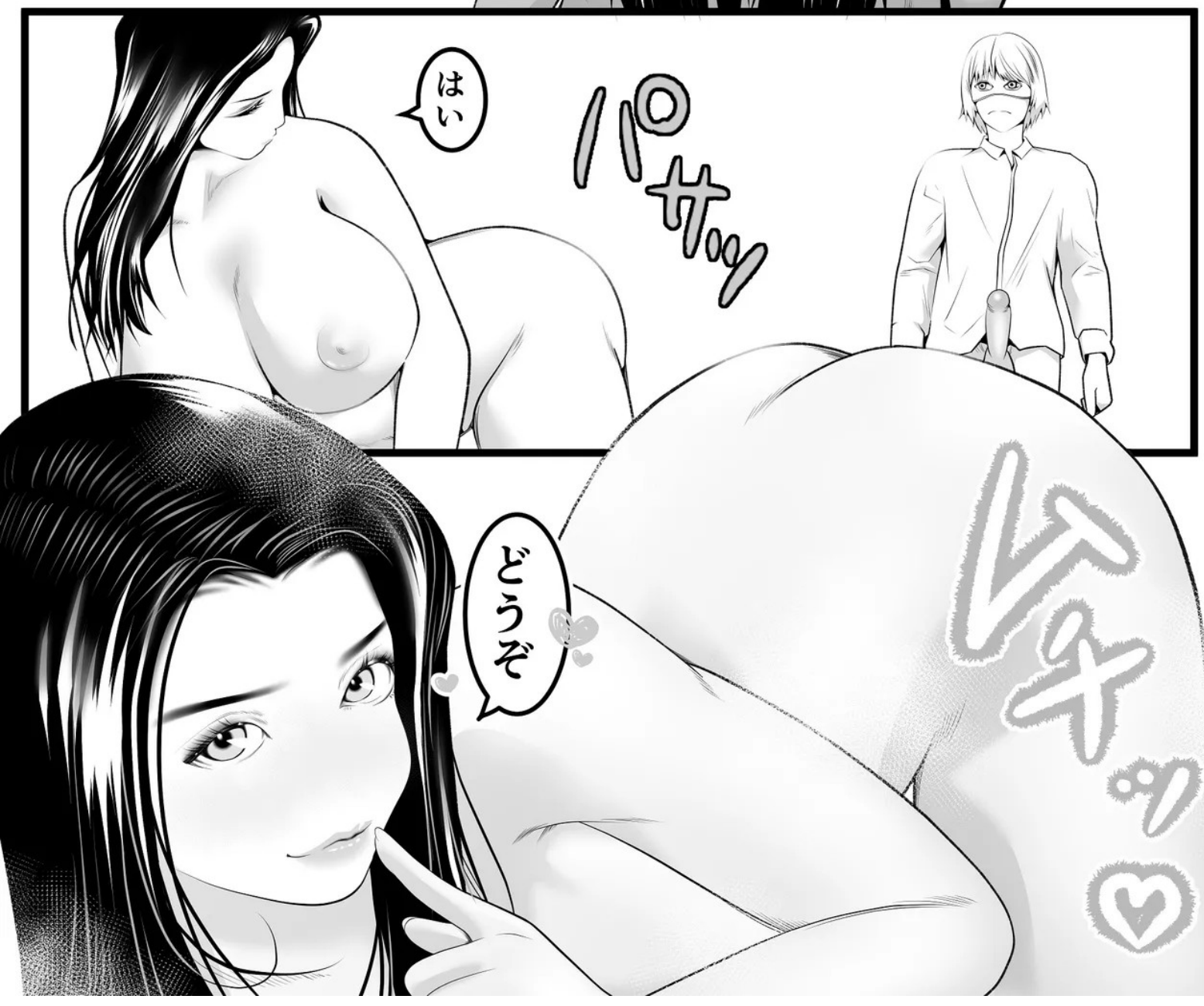

それでは始めさせていただきます
うむ
シュッ
シュッ
ぐぽっ♡
んぐっ♡
ぐぽっ♡


か、母さん、こんな所で
なにやってるんだよ！
かぷっ♡
ペロォ
なんで母さんが
あんなふしだらなことを
ぐっ！
マサルは
母がお屋敷と呼ばれる所に
奉公に行っているのは
知っていたが
そこで何をしているかまでは
聞かされていなかった
しかし今
目の前で
繰り広げられて
いるのは
シコシコ♡
自分の息子よりも幼く見える
少年のイチモツを咥え
音を立てて卑猥な奉仕をしている
母の痴態だったのだ

どこで覚えたのか
多彩な性技を駆使して
美佐子は少年を絶頂へと誘う

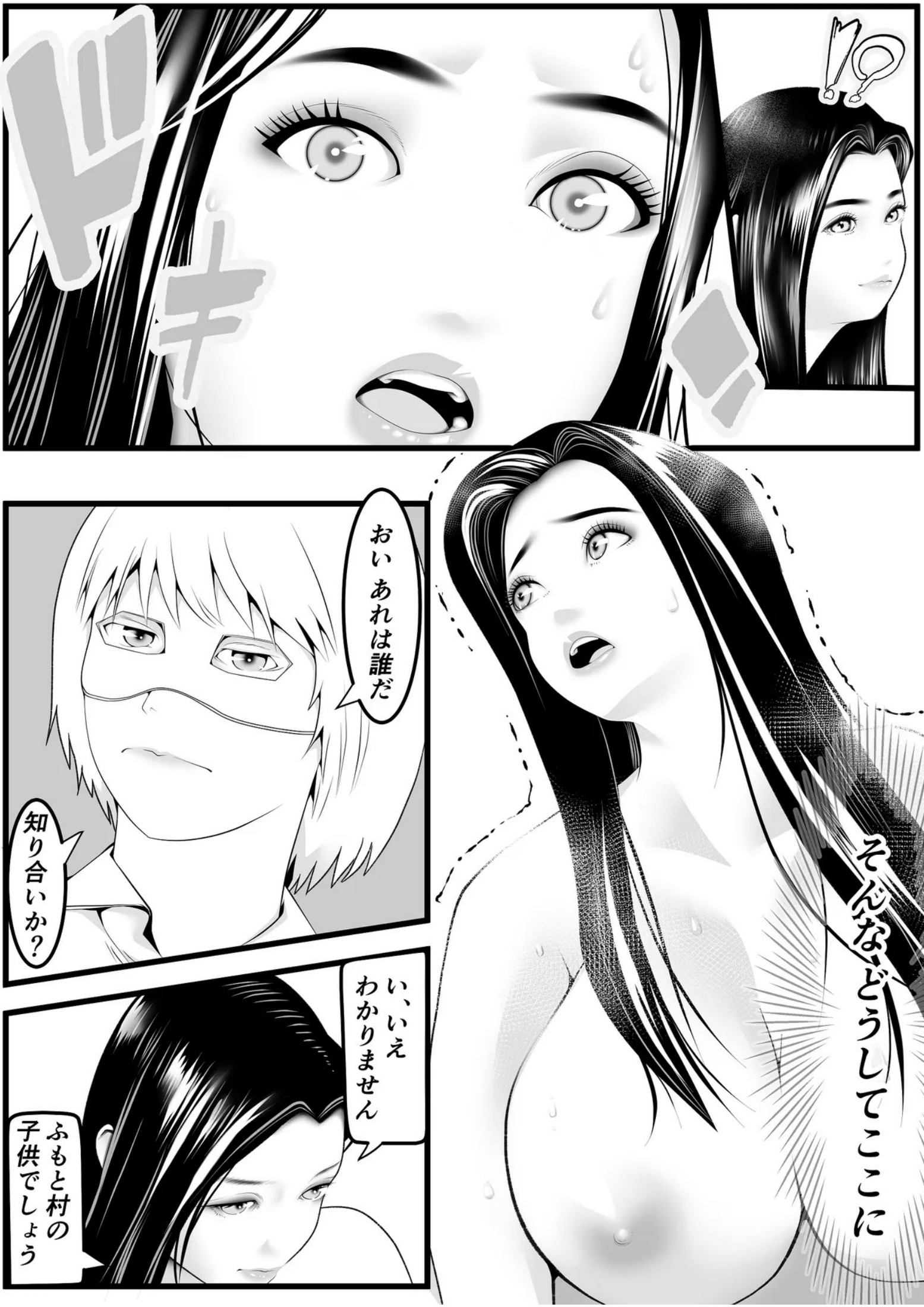
しかし
そんな彼女の努力とは裏腹に
少年のペニスは
なかなか射精へと至らなかった

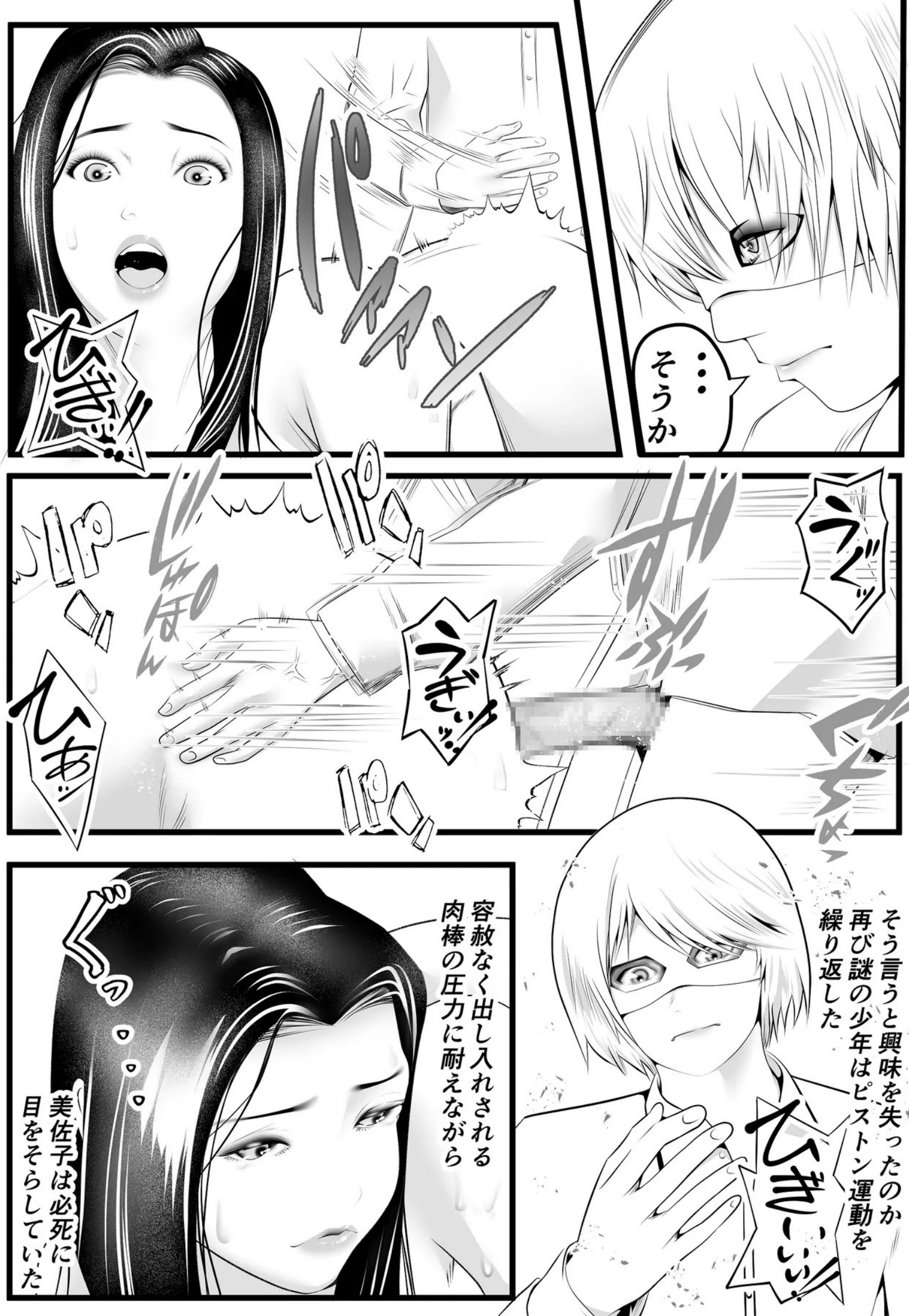


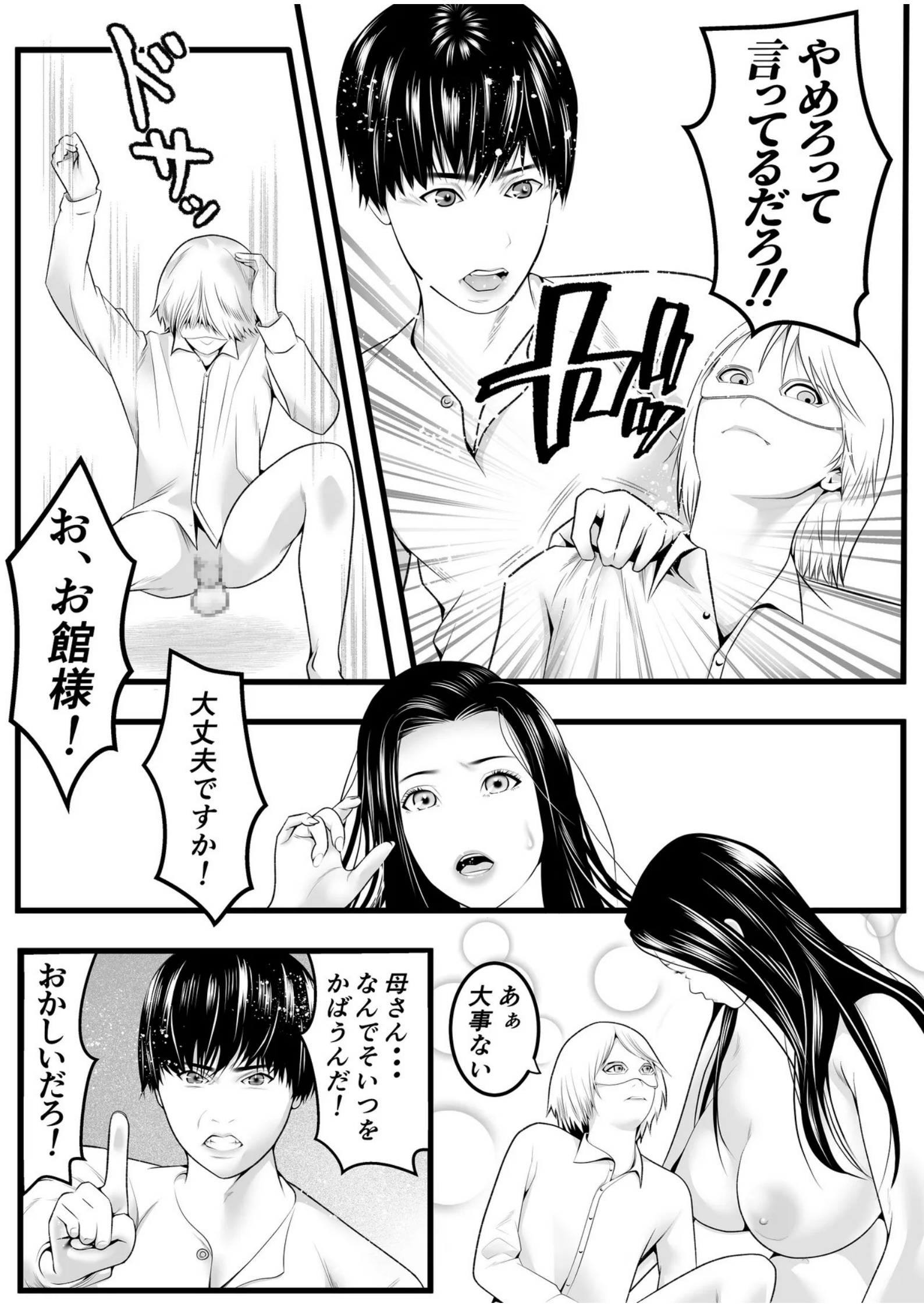


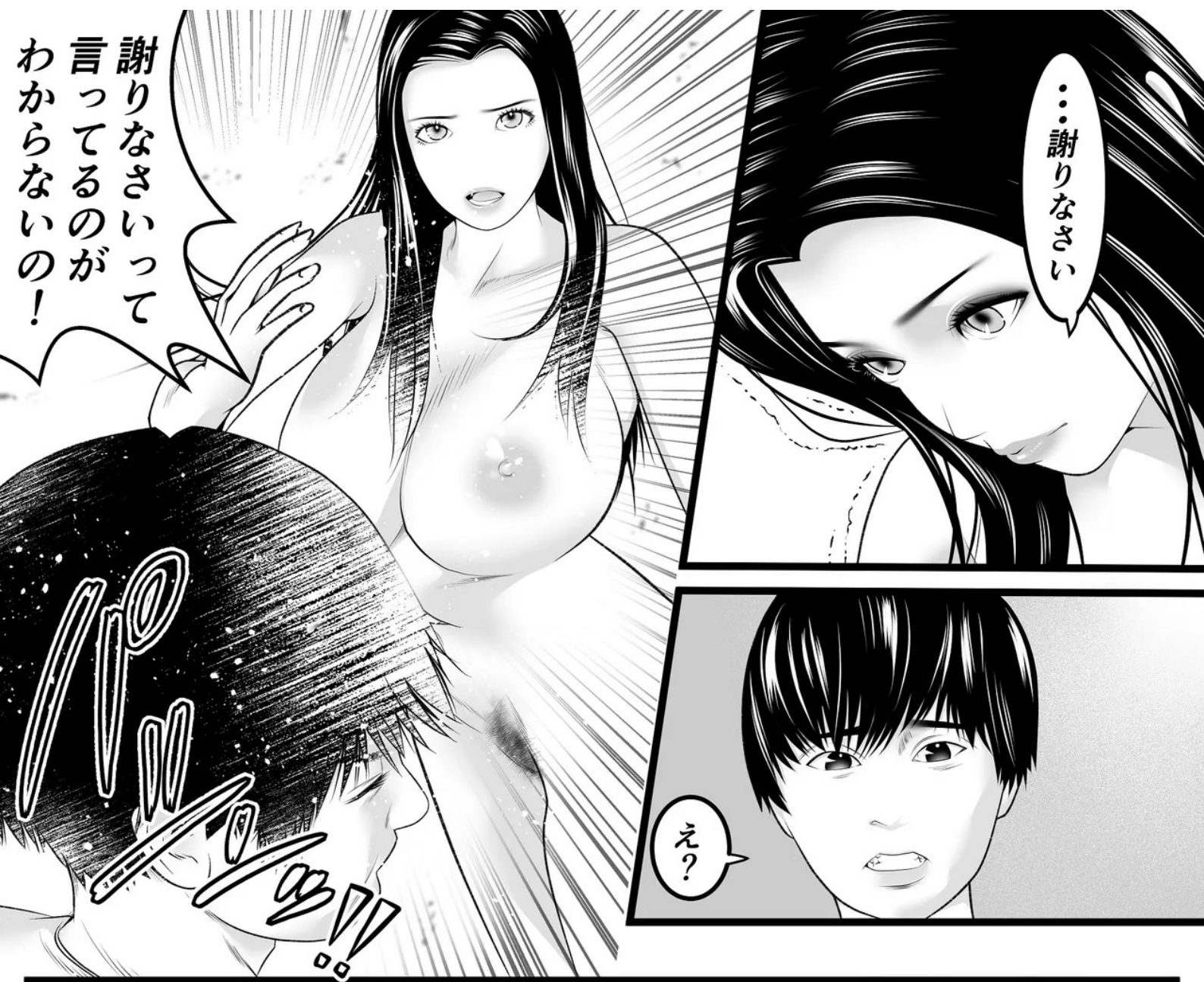

美佐子は四つん這いになり
自ら天高く巨尻を突き上げた
ぬのの
恥じらう様子などなくフリフリと
尻を振って誘うとゆっくりと
少年のものには
似つかわしくないペニスが
瑞々しい肉壺へと収まっていく
ズブブ
家では聞いたことのない
嬌声を上げる母
こちらまで
ぬぷりぬぷりと聞こえて
きそうな濡れ場に
マサルの目は
釘付けとなった
びくっ
おっ
んぅ
女手一つで育ててくれた母
病の床にあっても
励まし慈しんでくれた母が今
あんっ
おっ
あんっ
あっ♡♡
目の前で
なまめかしくも
体をくねらせ
喘いでいるのだ


興が乗ったのか
少年はパチンパチンと
美佐子の大きな尻を
叩きだした
それはまるで
馬を調教するような
しぐさであったが
見知らぬ少年に
犯されて歓喜する母の声は
マサルの複雑な胸中をより
いっそうかき乱した
いよいよ
このままでは
精神が堪え切れぬ
となった時
自然とマサルの足は
飛び出していた
なっ
なにをしているんだっ!!!

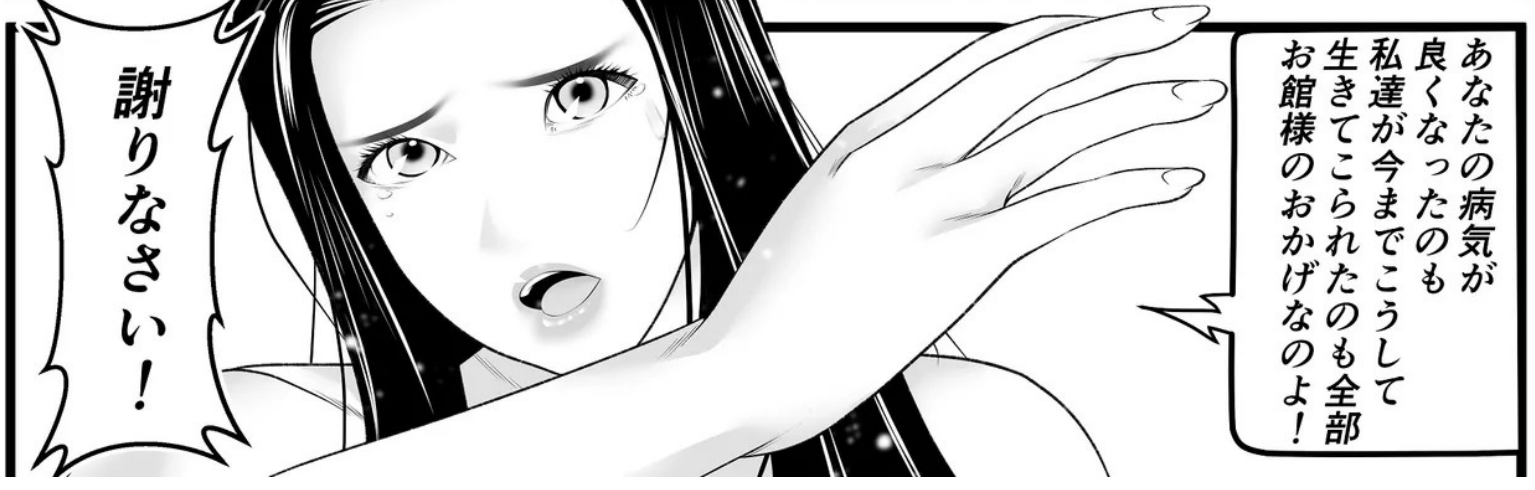

ドキ
!?
そんなどうしてここに
おい あれは誰だ
知り合いか?
い、いえ わかりません
ふもと村の子供でしょう


…そうか
ひぎっ…!!
パァン
うぐッ
うぎッ
ひあッ
パン
パン
パン
そう言うと興味を失ったのか
再び謎の少年はピストン運動を
繰り返した
ひぎぃぃぃ!!
容赦なく出し入れされる
肉棒の圧力に耐えながら
美佐子は必死に
目をそらしていた


やめろって
言ってるだろ!!
ドサッ
お、お館様!
大丈夫ですか!
あぁ
大事ない
母さん・・・
なんでそいつを
かばうんだ!
おかしいだろ!


・・・謝りなさい
謝りなさいって
言ってるのが
わからないの！
パーン!!
え？


突然の平手打ちに
マサルは動揺した
母にぶたれるのは
これが初めての
経験であった

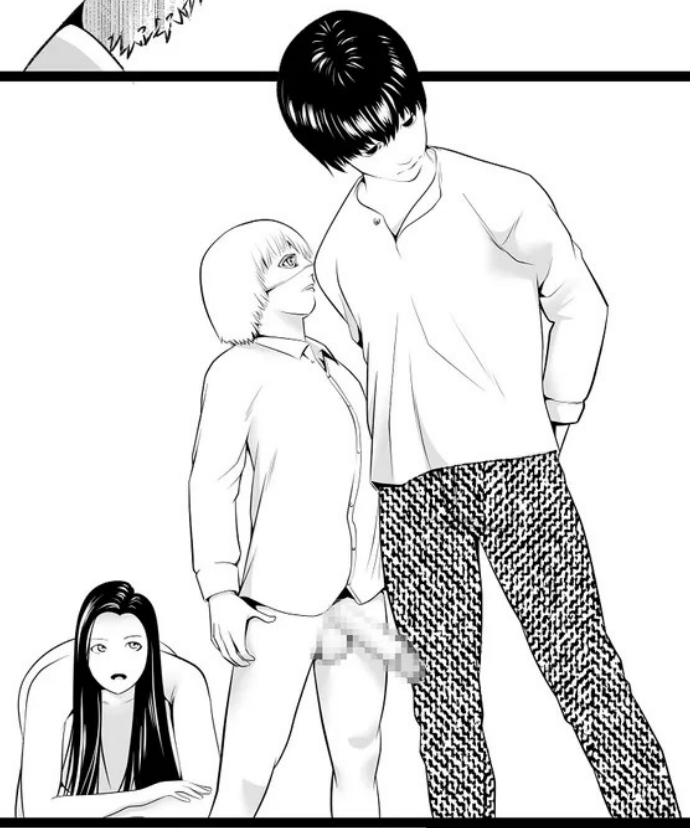

あなたの病気が
良くなったのも
私達が今までこうして
生きてこられたのも全部
お館様のおかげなのよ！
謝りなさい！


母の権幕に驚いたマサルは
釈然としないまま謝罪を口にした
すみま・・・せん
ナカ
申し訳ありませんお館様！
どうかこの子の罪をお許しください！
なにもわかってない子供なんです！
私がなんでもいたしますので
この子だけはお見逃し下さい！
お願いします！　お願いします！
わかった
だが美佐子よ
お前 嘘を
ついたな？

知らぬも何も
お前の大事な一人息子
ではないか

…は、はい
申し訳

謝らんでいい
少し黙っていろ



時が経つのは早いな
前に見た時はまだ
小僧だと思ったが

胸を病んで
余命いくばくもない
命であったが
出歩けるくらいには
良くなったのだな

お、お館様のお情けで
今日まで無事
生きながらえております

ふむ
名前はマサルだったか

はい
そうでございます


時にマサルよ
お前、勃起しているな？
ガシッ
うっ！
な、なにを！
隠しても無駄だ
お前の息子はほら
こんなにも
いきり立っておる
実の母が犯されるのに
興奮したのか？
グイッ!!
い、いいえ
そんなことは
怯えずともよい
私はお前の敵ではない
むしろ味方であるぞ
どうだ
やってみたくは
ないか？
は、はい？

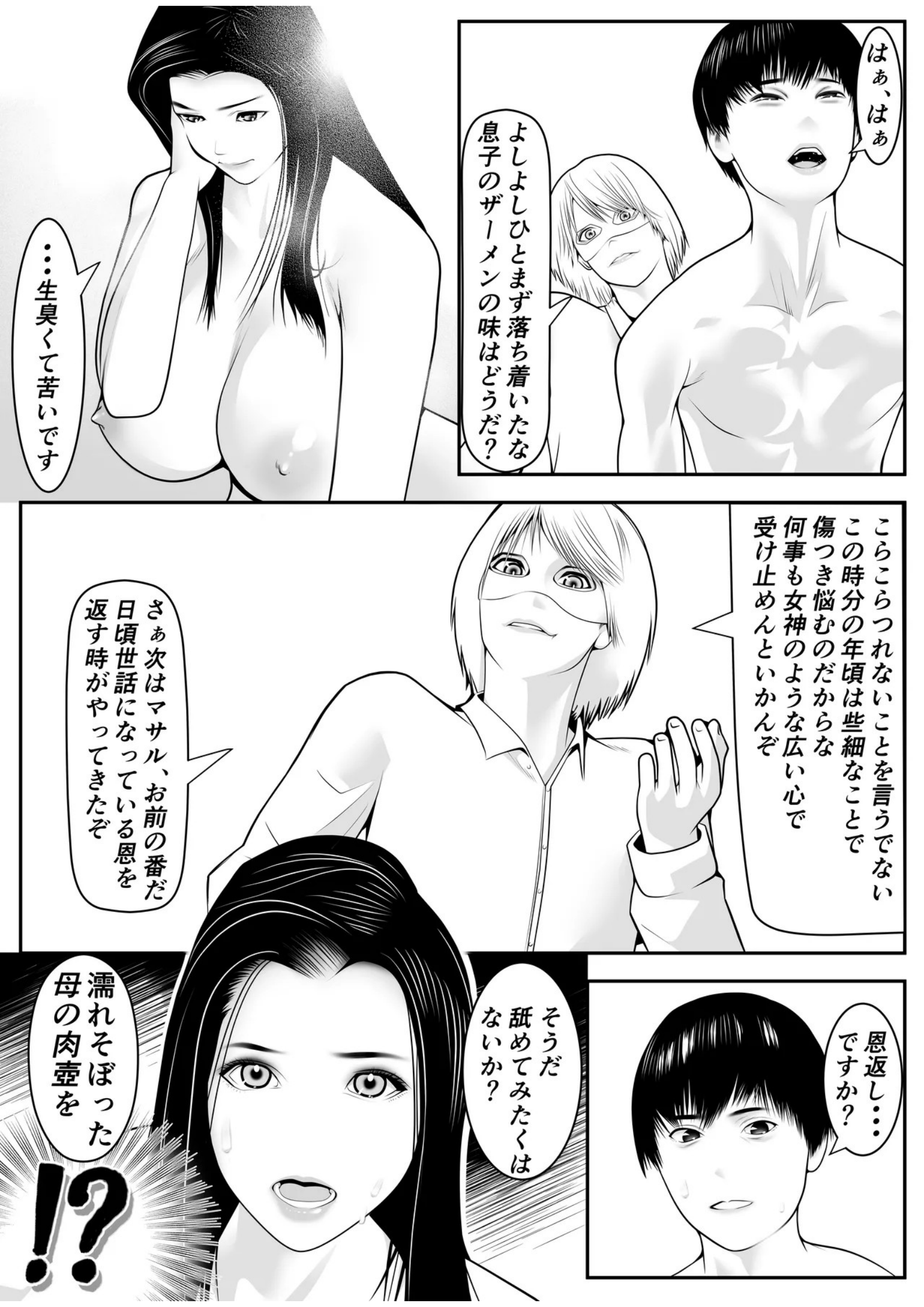

母を抱いてみたくはないかと聞いたのだ
お、お館様！それはあまりにも！
黙れと言ったはずだ私はマサルに聞いている
……
どうだ本心を言ってみろ
ここでのことは全て私のせいにすればいい
さぁ言え言うのだ!!


ぼ、僕は・・・
たい・です
どうしたもっとはっきり言え
母さんとしたい・・・です
マサル!!
おおよくぞ言った！
では私がお前の望みを叶えてやろう


さぁ美佐子よ
まずは息子のものを
その手で楽にしてやるのだ
ビキビキ
ビキビキ
お館様・・・
なんだどうした
まさか嫌とは言うまいな
何でもすると
言ったのは
お前だろう？
・・・はい


か、母さん
ちょっと痛いよ
これくらい
我慢しなさい
いかんぞ美佐子
男にとっても初体験は
大切なものなのだ
私にするように
してやれ、優しくな
……
わかりました
ぷちゅぽっ
ちゅっ
ちゃぷ
ぐちゅぽっ
ちゅるるる
ぷちゅ
ちゅるっ
和和和和


うっ！すごいよ母さん！
もう出ちゃう！
ビクビク
おおいいぞ！
美佐子よ、飲み込むのだ
そしてとくと
味わうがいい!!
レロレロ
……
かしこまりました
うわあああああああ!!!
ぶびゅっ
美佐子は戸惑いながらも
息子の青臭い精子を飲み下した
レロレロ
むせかえるような若い性欲に痺れつつ
ゆっくりと残り全てを舐めとる
はむ


はぁ、はぁ
よしよしひとまず落ち着いたな
息子のザーメンの味はどうだ？
・・・生臭くて苦いです
こらこらつれないことを言うでない
この時分の年頃は些細なことで
傷つき悩むのだからな
何事も女神のような広い心で
受け止めんといかんぞ
さぁ次はマサル、お前の番だ
日頃世話になっている恩を
返す時がやってきたぞ
恩返し・・・
ですか？
そうだ
舐めてみたくは
ないか？
濡れそぼった
母の肉壺を
!?






ぁあぁっ!!
ぁあああぁぁぁぁぁぁぁ!!
ジュワワワ



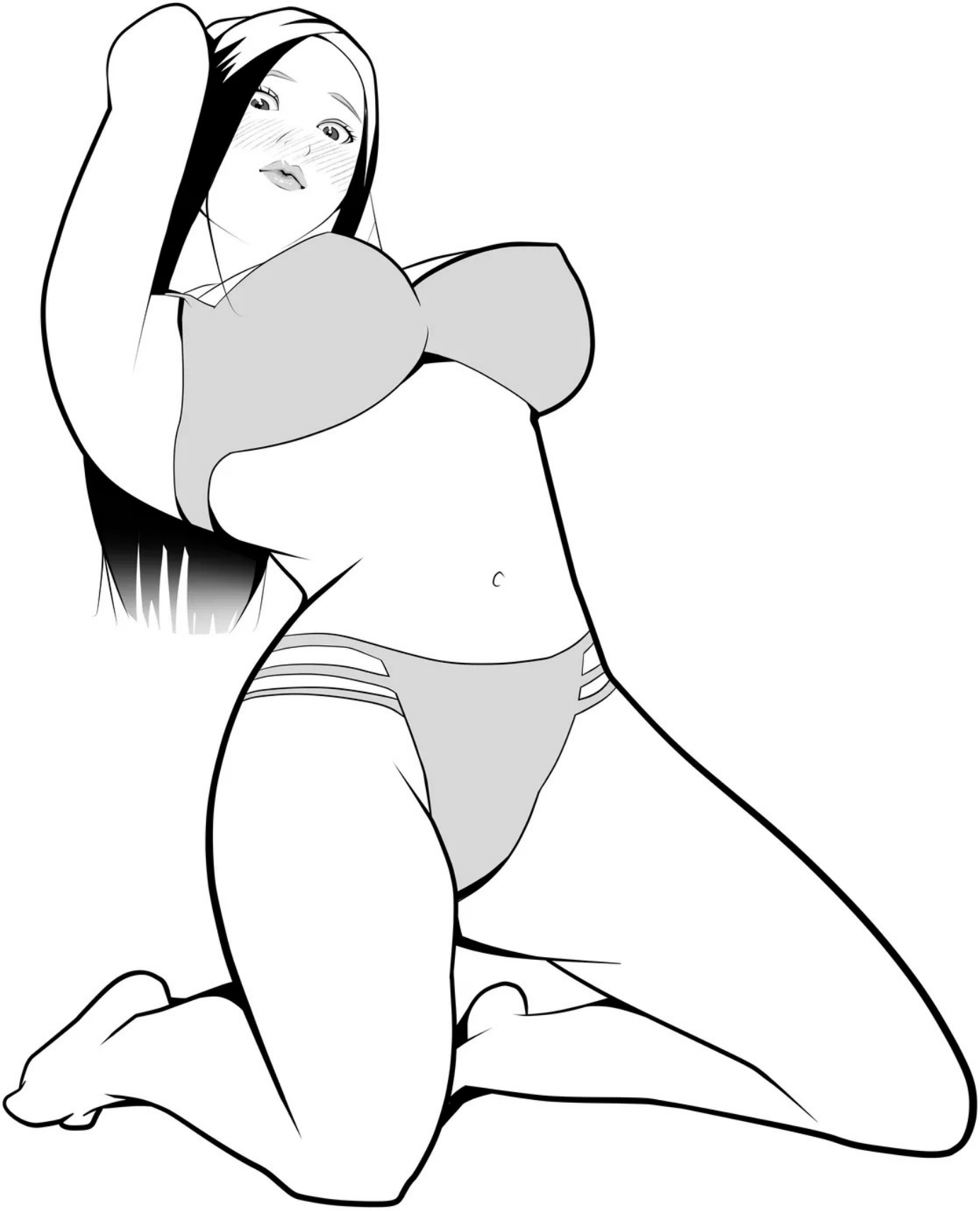

うん……
母さんじゃないと
いやだ
あらあら、もう
しょうがない子ね
いいわ
いらっしゃい♡

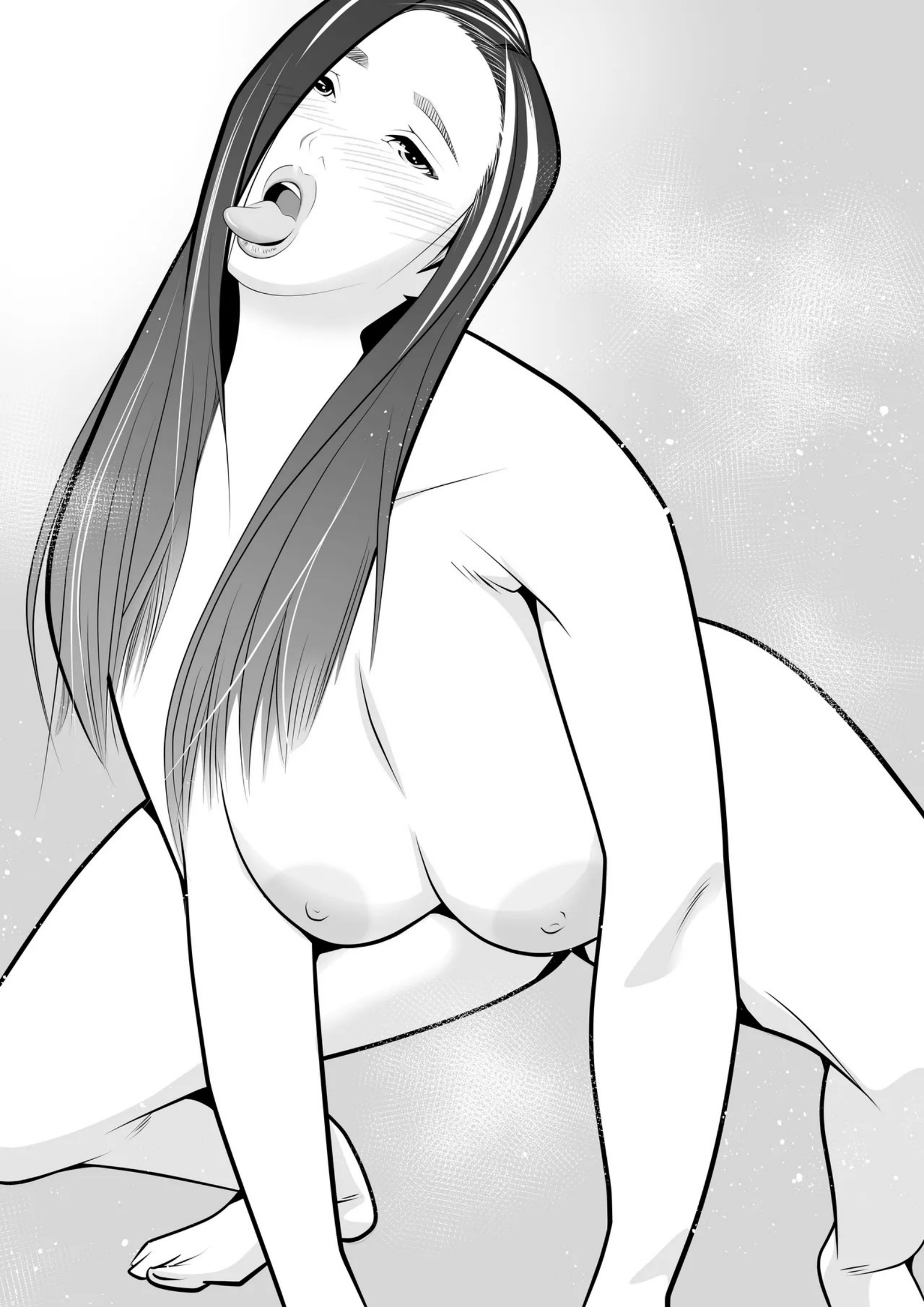

あっ♡
あんっ
あっ♡
あっ♡
あ♡
あ♡
ずちゅ♡
ずちゅ♡
ぬぽ♡
ぬぽ♡
おっ
ん♡
ト












A
B




お母さんで気持ちよくなっちゃダメぇ!!
いやぁ!!
あん♡
パン
パン
パン
パン









